

Dance Dance Dance

ダンス

ダンス

ダンス



第37回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

ブエノスアイレス・ユースオリンピック (BAYOG)
アジア大陸予選大会 (台北)

第25回都道府県対抗 全国ダンススポーツ大会in愛媛



公益社団法人

日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2018 No. 86



New Year's message

ニューイヤー・メッセージ



世界ダンススポーツ連盟 (WDSF)
会長 ルーカス ヒンダー

日本のダンススポーツ愛好者の皆さんへ新年のご挨拶

Dear friends of DanceSport

May I take this opportunity to thank our Japanese member federation for the constructive collaboration during the year 2017 and congratulate its dancers for the success in various competitions.

JDSF will hold a strong position as one of leading countries in Breaking in 2018, with 2 b-girls and 3 b-boys participating as its representatives in the WDSF World Youth Breaking Championship on 20 May 2018 in Kawasaki - on their home grounds. I wish to congratulate all the 5 young ones for getting in to the 3rd and last qualifier to Youth Olympic Games in Buenos Aires.

DanceSport is evolving in time. All the disciplines change - part of the beauty in dance is the continuous development. I am pleased to see how Breaking has been taken in as a member of our sports. For being able to follow the needs of the Olympic family we need to be inventive in expressing ourselves - through different dance styles and disciplines.

Thank you for being part of the development and participating to the growth of the new era alongside with the Breaking community.

I want to thank all the members of the Japanese DanceSport Federation and wish you all a Happy New Year 2018!

Good luck for the future challenges and competitions!

Lukas Hinder

President

World DanceSport Federation

親愛なるダンススポーツを愛する友人の皆様へ

世界ダンススポーツ連盟 (WDSF) を代表し、WDSF のメンバーボディーである公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) の昨年の建設的なご協力に感謝し、様々な大会を成功に導いたダンサーたちに、新年のお喜び申し上げます。

本年5月20日、WDSF世界ユースブレイクダンス選手権大会が川崎で開催されます。日本代表として2人のbガールと3人のbボーイが参加することとなり、JDSFは開催国として、2018年におけるブレイクダンスの主要国の1つとして強固な地位を確立することとなります。

私はこの大会で、本年7月にブエノスアイレスで開催されるユースオリンピックの最終予選に進む5人の若者すべてに祝福を送りたいと思います。

ダンススポーツは、時代を超えて進化しています。すべての種目が変わります。ダンスの美しさの一部は、これからも発展し続けます。私は、ブレイクダンス (Breaking) がどのようにして我々のスポーツの一員になってきたかを知り、嬉しく思います。

オリンピック・ファミリーのニーズに従うためには、さまざまなダンススタイルや種目を通し、自分自身を独創的に表現する必要があります。

JDSFの皆様には、ブレイクダンス関係者の皆様とともに発展し、新しい時代への成長に参加して頂くことに際し、心よりお礼申し上げます。

日本ダンススポーツ連盟の会員の皆様に感謝するとともに、2018年のご多幸をお祈りします！

チャレンジと競技に幸運を！

世界ダンススポーツ連盟 (WDSF)

会長 ルーカス ヒンダー

(訳：JDSF鶴崎清貴国際本部長)

年頭のご挨拶



公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

副会長

中井眞一郎

明けまして おめでとう ございます

今年も、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) にとりまして、会員のみならず、JDSFをご支援して頂いている全ての皆様にとりまして、素晴らしい年であるように、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、JDSFの前進であるJADA (日本アマチュアダンス協会) 創立から40年を迎えJDSF創立40周年記念式典が6月26日、京王プラザホテルにおきまして盛大に開催されました。40年の歴史は、いわば、“目指せ！オリンピック&国体実現”を目指しひたすら突き進んできたように思います。1977年JADAの創立時期は、一言で申せば、プロ団体からの独立運動とも言える時代であったと思います。それが昨今は、時代背景の変化 (オリンピックのアマチュアリズムの変遷等) もありますが、JDSFはPD本部の設立、さらにプロアマの融合を目指し、一途とも言えるべき努力をされています。東アジア競技大会、アジア競技大会、そしてトルクメニスタンで開催されたアジアインドア&マーシャルアーツゲームズでもダン

ススポーツ競技は正式種目として、世界ダンススポーツ連盟 (WDSF)、アジアダンススポーツ連盟 (ADSF) と共に、実現してまいりました。今、オリンピックの世界は、プロもアマも区別はありません。

本年は皆様既にご承知のとおり、IOC (国際オリンピック委員会) 主催のユースオリンピック大会が2018年10月ブエノスアイレスにおいて開催されます。ダンススポーツが正式競技となり、ブレイクダンス種目が実施されます。それに伴い5月20日、WDSF世界ユースプレイキン選手権が川崎市において開催されます。ダンススポーツ競技のオリンピック正式種目化もいよいよ目前と思われます。

今年は、是非ともユースオリンピックの成功、そしてダンススポーツ (10ダンス) のオリンピック実現に向けて、そして国内では国体の正式種目化に向けて、記念すべき飛躍の年であると信じています。皆様と共に、実現までのあと一步の努力を積み重ねましょう。

新たな年の年頭にあたり、皆様のご多幸を祈念申し上げます。



(私事で恐縮ですが、昨年所沢市長の推薦と所沢市議会の同意により、所沢市の市制施行後6人目の名誉市民と名誉市民賞を賜りました。この場をお借りしてご報告申し上げます。)

中井眞一郎副会長が 所沢市名誉市民賞に輝く

中井眞一郎氏は、昭和62年10月より平成3年10月まで (1期) 所沢市長を務められました。行財政改革、女性の地位向上、情報公開やインフラ整備のほか所沢市民センターミューズの建設に尽力され、平成2年には市制施行40周年記念事業として所沢シテイマラソン大会を開催し、同大会は今日も多くランナーに愛される大会となっています。



授与後に挨拶される中井眞一郎氏



第37回三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権

2017年10月8日(日) / 東京体育館メインアリーナ

三笠宮杯は1980年、三笠宮崇仁親王殿下が当時の日本アマチュアダンス協会(JADA、1999年に日本ダンススポーツ連盟JDSFに改称)総裁にご就任いただきましたことを記念して御下賜されました。記念すべき第1回大会は、1981年に、'81テンカップとして故三笠宮崇仁親王、百合子妃殿下のご臨席のもとで開催されました。その後、毎年欠かさず開催され、参加選手の増大に伴い、全国の予選を勝ち抜いたトップ選手による選抜競技会となり、今日では名実ともにダンススポーツの頂点となる全日本選手権として脈々と歴史を積み重ねています。

三笠宮崇仁殿下は、御歳百歳で薨去されました。グランドセレモニーの前に「ご来場の皆様とともに、心から哀悼の意を表したいと思います」というアナウンスで、在りし日の三笠宮崇仁さまのお姿が大型スクリーンに映し出され、1分間の黙祷を捧げました。



スクリーンに映し出された三笠宮崇仁殿下の映像

本大会は、今年も公益財団法人東京都スポーツ文化事業団との共催で実施されました。午前中から多数の観客が来場しチケットは完売、グランドセレモニーの始まる15時頃には約7千人の大観衆で熱気あふれる大会となりました。

ご来賓を代表して秋元司衆議院議員(JDSF顧問・ダンス文化推進議員連盟事務局長、国土交通副大臣)より、「ダンスの魅力を広げダンスの振興を図りいよいよオリンピック競技種目になるように精一杯頑張っていきたい」とご祝辞を賜ったあと、主催者を代表し公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF)齊藤斗志二会長は「6月に日本ダンススポーツ連盟創立40年記念式典を行ない、50年に向かってオリンピック種目・国体実現を目指して新たな決意をした。ジュブナイル・ジュニアからシニアまで、アマチュアからプロフェッショナルまで、フロアーからストリートまで、老若男女、幅広い



秋元司衆議院議員
(JDSF顧問、国土交通副大臣)



齊藤斗志二
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF)会長



坂内顕宏
公益財団法人東京都スポーツ文化事業団常務理事



開会宣言
鈴木 明
大会実行委員長

層が一緒になってダンスを楽しんでいただきたい。そして、ユースオリンピック正式種目となったブレイキンの最終予選が2018年5月に日本で開催される。日本にはメダル候補が沢山います。ぜひ、厚い声援をお願いします」と挨拶、続いて公益財団法人東京都スポーツ文化事業団坂内顕宏常務理事は「選手、観客の皆様感謝します。選手にはダンススポーツの力と技、素晴らしいパフォーマンスを存分に発揮していただきたい」と挨拶されました。



ご来賓の皆様



JOCジュニアオリンピックカップ 全日本選手権ジュニア

優勝カップルには、JOC(公益財団法人日本オリンピック委員会)から優勝トロフィーが授与され、将来、オリンピック競技大会や世界選手権等において活躍が期待できる選手として、翌年度の「JOCオリンピック有望選手」に推挙されます。



ラテン
準優勝

長谷川悠・安達あん珠組
(富山県)〈同St 3位〉



会場に設営されたブルボンコーナーとロヂャースコーナー

スタンダード
準優勝



太田歩生・太田なごみ組
(北海道)〈同La 3位〉

スタンダード
優勝



五月女光政・五月女睿佳組
(ブルボン/DST)〈同La優勝〉



全日本選手権ジュニア スタンダード表彰式



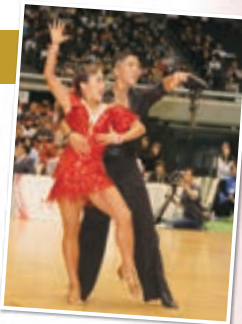
全日本選手権ジュニア ラテン表彰式

三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

前回大会で、見事初優勝に輝いた、スタンダード小嶋組、ラテン藤井組の連覇なるか注目の戦いでしたが、さらにスピードを増し、ダイナミックさと緩急のステップワーク、表現力に磨きをかけた小嶋組と、緊張感みなぎる決勝フロアで楽しく自分たちの踊りを精一杯踊り切った藤井組が、見事連覇を果たしました。

シニア世界選手権等で大活躍のロベス&キンタロー。こと、岸英明・田中志保組(東京都)は、ラテン部門にチャレンジし3次予選まで進み、健闘しました。

岸英明・田中志保組
(ロベス&キンタロー)



優勝



小嶋みなと・盛田めぐみ組(神奈川県)

準優勝



藤井創太・吉川あみ組
(千葉県/東洋大学)

三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権 スタンダード

第4位



渡辺安登・石垣真衣組
(ブルボンDST)

第5位



山田恭平・秋山彩織組
(東京都)

第3位



大西大晶・大西咲菜組
(東洋大学/富山県)

第6位



菅原一樹・Laura Collavizza組
(東京都)

準優勝

三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権 ラテン

第3位



大西大晶・大西咲菜組
(東洋大学/富山県)

第4位



海老原拳人・タカギ ルナ組
(千葉県)

第6位



濱田琉衣・稲村百香組
(栃木県)

第5位



菅原一樹・Laura Collavizza組
(東京都)

優勝



渡辺安登・石垣真衣組
(ブルボンDST)

藤井創太・吉川あみ組
(千葉県/東洋大学)

毎日新聞社杯 全日本PDダンススポーツ選手権

前回ラテンチャンピオンの山本武志・木嶋友美組はフランスで開催されたWDSF世界10ダンス選手権(ファイナル進出!第5位)出場のために欠場となりましたが、昨年はまだこの時期パートナー不在だった久保田組が参戦し、共に安定した実力を発揮したオレクシー組と久保田組がそれぞれ優勝しました。

ラテン
準優勝



西村康宏・鳥尾綾香組 (東京都)

ラテン
第3位



新屋秀和・滝川絵理組
(大阪府)

ラテン
優勝



久保田弓椰・徳野夏海組
(北海道)〈同St準優勝〉

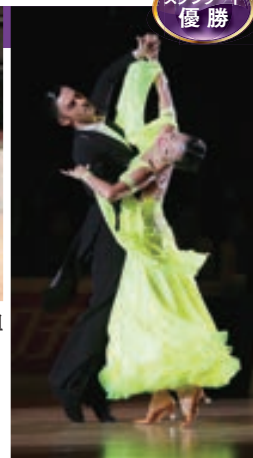
スタンダード
第3位



山崎圭太・石本美奈子組
(東京都)

オレクシー グザー・
太田吏圭子組 (東京都)

スタンダード
優勝



全日本PDダンススポーツ選手権 ラテン表彰式



全日本PDダンススポーツ選手権 スタンダード表彰式

全日本選手権ジュブナイル

スタンダード
優勝



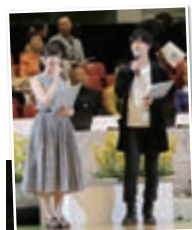
ホワイトン 謙心・
ホワイトン 夏奈実組
(神奈川県) (同La優勝)



全日本選手権ジュブナイル スタンダード表彰式



全日本選手権ジュブナイル ラテン表彰式



TVアニメ「ボールルームへようこそ」の主演、
富士田々良役の声優「土屋神葉さん」と花岡
零役の声優「佐倉綾音さん」がゲスト出演し、
フロアーに進み挨拶されました。

Let's show [THE JAZZ]: 8月に開催された世界最大級のダンス・エンターテインメント作品(大人数ダンスナンバー)のコンテスト「Legend Tokyo Chapter 7」でJDSF特別賞とオーディエンス賞に輝いたSHOJINの作品「THE JAZZ」

第37回三笠宮杯インタビュー

【三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権スタンダード優勝】 小嶋みなと・盛田めぐみ組(神奈川県)

「2連覇できて良かったです。守りに入らず積極的に攻めて、自分たちの踊りの進化したところを多くの人に見ていただきかったので、今日は良いパフォーマンスができたと思います。若手選手の台頭が刺激になっていますが、フィジカル面と技術面、全てのことを見直して試合に臨めました。今回は表現の面に力を入れていて、特にクイックは直前に音楽の取り方を見直しましたが、結果を出せたので嬉しく思っています。去年チャンピオンになってからいろいろな経験ができたことが自分の成長に繋がっていて、今後は海外試合でその経験を活かしていければと思います。日本のNo. 1として海外で活躍できなければ本当のチャンピオンではないと思っていますので、まずは海外で結果を出していきたいと考えています！」※10月21日のWDSF台北オープン5位に入賞！



【三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権ラテン優勝】 藤井創太・吉川あみ組(千葉県/東洋大学)

「今回チャレンジャーではなかったのでプレッシャーがありましたが、それを覆すほどの楽しさで踊り切れました。楽しく踊れたのが今回の勝因だと思います。目標の2連覇を達成できてとても嬉しいです。昨年優勝し人生が変わりました。チャンピオンに相応しい踊りをしなければいけないという重圧もありますが、コーチや両親など、自分たちが色々な人たちに支えられていることを改めて考えさせられました。海外はレベルが高いので、気負わず挑戦する気持ちで挑んでいけます。また、国内の競技でも守りに入らず楽しんで踊るようにしています。今日のジャイブのソロは渡辺安登くんたちといつも練習している自分たちの好きな曲だったので、気分が乗って最高の踊りができました。次の目標は来年の三笠宮杯で3連覇することと、日本のチャンピオンの名前に恥じないように、世界のファイナルへの扉を僕たちが開きたいと思っています！」

【毎日新聞社杯全日本PDダンススポーツ選手権スタンダード優勝】 オレクシー グザー・太田史圭子組(東京都)

「2連覇できて大変嬉しいです。今日は私たちのコーチであるエマニエル・タニア組も来ているので喜んでもらえたと思います。ダンスではフィジカルやメンタルも大事ですが、PDではスポーツ性よりも感情の表現ができるように、観客に何かを伝えるように努力しています。PDはソロ競技がないので練習してきたことを100%発揮することは難しいですが、エネルギーだけでなくオーラを発し、音楽のフィーリングに何かをプラスして観客に感動を届けることができたいと思っています。『ボールルームへようこそ』は海外でもYouTubeで見っていますが、今日の黄色いドレスは登場人物の真子ちゃんのドレスにちょっと似ていると思いませんか？ これからも応援をよろしくお願いします！」



【毎日新聞社杯全日本PDダンススポーツ選手権ラテン優勝】 久保田弓椰・徳野夏海組(北海道)

「今年1月にカップルを組んだばかりの短い期間でしたが、パートナーがよく練習に付いてきてくれました。練習が豊富にできたことをパートナーのご両親に感謝したいです。今回は周りの方々のサポートがあったので優勝なので皆さんに感謝しています」と、久保田選手。徳野選手は「今まで経験したことがない大きな大会で優勝できて大変嬉しいです。引っ張ってくれたリーダーとサポートしてくれた皆さんに感謝したい」とコメント。リーダーは北海道で札幌国際大学の大学院に通い、パートナーは茨城で高校(高2)に通うという遠距離カップルですが、練習場所は東京と札幌で半々くらいだそうです。久保田選手は、今年からPD部門に転向されましたが、この日はPDの世界10ダンス選手権が重なっていたのですが、PDを盛り上げるために参戦。今後は海外の試合にも積極的に挑戦していきたいと意気込みを新たにしていました。

【JOCジュニアオリンピックカップ全日本ダンススポーツ選手権ジュニアラテン・スタンダード優勝】 五月女光政・五月女睿佳(中3・中1)組(ブルボンDST)

「2連覇を目指していたのでとても嬉しいです。今日は観客へのアピールをすること、音楽を表現することに気を付けて踊っていました。ジュニアのスタンダード決勝が三笠宮杯の準決勝から引き続き行われたので、体力的に厳しかった」と言っていました。大会に向けて体力作りを重点的にやってきたことが功を奏したようです。「バスケットボールもやっていますがダンスが一番好き、ダンスは音楽に乗れるところが好きです」という中学生兄妹は、今年でジュニア卒業。すでに三笠宮杯の準決勝に残る結果を出していますので、今後の更なる成長が楽しみな選手です。

※10月15日、モルドバでジュニアII10ダンス世界選手権6位入賞！



【全日本ダンススポーツ選手権ジュブナイルラテン・スタンダード優勝】
ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実 (小5・小4) 組(神奈川県)

「去年が準優勝だったので優勝できてすごく嬉しいです。先生に注意されていたのはキレを出すこと、キレのあとに柔らかく止まるようにすることですが、今日は出来たと思います。」と謙心くんは満足していたようでしたが、夏奈実ちゃんはもっとうまく踊れたかもしれないと思っていたようです。また、「優勝ばかり考えると緊張するので踊るを楽しむことを考えていました」というしっかりしたコメントや「目指しているのは世界チャンピオンですが、その後にダンスの先生になりたい!」と二人。この日のためにアメリカから応援に駆け付けてくれたお婆ちゃんにも喜んでもらえ、ジュブナイル最後の年に最高の成績を上げられたことを喜ぶ、元気でかわいらしい兄妹カップルでした。



「Legend Tokyo Chapter 7」でJDSF特別賞とオーディエンス賞に輝いた
コレオグラファー【SHOJIN】

「ここ3年くらいコンテストに出していて2年連続で4位になりました。活動は山本リンダさんのコンサートツアー、KOKIAさんなどアーティストの振付、舞台ミュージカル、テーマパークでの振付などを行なっています。ダンスを始めたのは大学(早稲田大学社会科学部)に入ってからで、今は27歳です。在学中からツアーに出ていましたが、テーマパークでのオーデションに受かったのがこの道に入るきっかけとなりました。夢は自分の大きな公演を打つことで、脚本・演出・振付をして客席を満杯にすることをしたいと思っています!」(取材: JDSF広報部副部長 奥水洋一)

年末年始のTV番組
出演レポート

今ひそかにブームが起きている「ダンススポーツ」として、今年の全日本チャンピオン18歳の藤井創太選手&19歳の吉川あみ組、ライバルの渡辺安登選手が紹介されました。

スポーツが好きだ

TBS 12/21(木)・28日(木) 毎週木曜日10:54より



日本レコード大賞

TBS 12/30(土) 17:30よりの生放送

お馴染みの歌謡年末番組【輝く! 日本レコード大賞】にJDSFより以下の選手がオープニングアクトとして出演いたしました。他にも“美女と野獣”の時にも出演しました。



出演者

〈スタンダード〉

山本 武志・木嶋 友美
八谷 和樹・皆川 円
山崎 圭太・石本美奈子
田沢 拓都・須田 美咲
五月女光政・五月女観佳
(フルボンDST)

〈ラテン〉

大西 大晶・大西 咲葉
菅原 一樹・山岡 恭子
海老原拳人・タカギルナ
西村 康宏・鳥尾 綾香
藤井 創太・吉川 あみ

演出は山本武志・木嶋友美組です



ニッポンよ! セカイを倒せ! フジヤマ 日本のNo.1 VS 世界のNo.1

フジテレビ 2018年1/1(月) 18:00 ~ 22:00



東京大学フォーメーションチーム



ドイツフォーメーションチーム(グリーン・ゴールド・クラブ)

元旦の特番で、9競技のうちの1つとして、フォーメーション・ダンスの日本チャンピオンの東京大学運動会競技ダンス部フォーメーションチームと、世界チャンピオンのフォーメーションチーム(ドイツ)との対決です。バラエティ番組ではありますが、ジャッジはWDSFの新審判システムAJS3.0(絶対評価)を使用、ドイツ連盟2名と日本8名は全てWDSF審判員で、がっちんこ勝負となりました。

Youは何しに日本へ?

TV東京系 2018年1/1(月) 17:55 ~

4時間20分スペシャルに、オレクシー・グザー／太田吏圭子組が登場。北海道にデモをしに行ったとき、空港で番組スタッフに声をかけられ密着取材され、元旦の特番出演となりました。



ブエノスアイレス・ユースオリンピック(BAYOG) アジア大陸予選(台北) 大会報告

JDSF国際渉外部長 村田寿美子

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF)は、ブエノスアイレス・ユースオリンピック(BAYOG)に出場すべく、最終予選となる2018年5月、WDSF世界ユースブレイキン世界選手権(WDSF世界ユース)に出場する日本代表選手10名に帯同し、2017年12月2日に台北で開催されたアジア大陸別予選大会に臨みました。その際の選考結果や大会の様子をレポートします。

「ブレイキンは、ユースオリンピックのDNAに最も合致する」

2018年10月6日(土)から18日(木)にかけてアルゼンチンの首都ブエノスアイレスで開催されるユースオリンピック(Youth Olympic Games: YOG)に、ブレイキン種目が正式採用されました。

2016年12月採択時のIOC理事会を終えて“ユースオリンピック組織委員会は、ブレイキン(=ブレイクダンス、英Breakdance)が彼らのビジョン、そしてユースオリンピックのDNAにもベストに合致する。”と発表しました。

“The coordination commission for the games found Breakdance to fit their vision and to match the particular YOG DNA best.”

今回BAYOGで正式種目として採用されたブレイキン(=ブレイクダンス、英Breakdance)は広くブレイクダンスとして知られており、BAYOGでは本来の呼称であるブレイキンを採用しています。また選手(踊り手)は、B-Boy(ビーボーイ)、B-Girl(ビーガール)と呼ばれます。

第1次予選はBreaking for GoldのWEBサイト上(<http://breakingforgold.com/>)で、各国5名の代表候補がビデオ審査で選出され、第1次ビデオ予選を通過したブレイキン・アスリート男女5名が第2ステージとなるアジア大陸予選大会に進出しました。2018年5月、日本(川崎市)で開催されるBAYOGへの最終ステージとなるWDSF世界ユースブレイキン世界

選手権(WDSF World Youth Breaking Championships: WDSF 世界ユース)への出場を競い合います。

結団式

アジア大陸予選大会に出場する10名は11月23日に東京都江東区有明のJDSFの会議室において結団式に臨みました。結団式の前に、オリンピックアスリートを目指す者にとっては不可欠のアンチドーピングの講習会(90分)も開催され、古瀬精一JDSFアンチドーピング委員長を講師に若い高校生を中心とした選手達はアンチドーピングの説明を熱心に聴講しました。

さらに、山田淳团长(JDSF専務理事)の挨拶、石川勝之ブレイクダンス部長の挨拶、そして選手が個人的にインタビューを受ける際の諸注意、公式ジャージを着用する場所なども説明がありました。

アジア大陸予選(台北)



アジア大陸予選大会日本代表

B-boy	B-girl
1) Shigekix 本名: 半井重幸 在住: 大阪府大阪狭山市 生年月日: 2002年3月	1) Ram 本名: 河合来夢 在住: 神奈川県横浜市 生年月日: 2001年4月
2) Shoya 本名: 金森翔也 在住: 石川県白山市 生年月日: 2002年3月	2) Uruha 本名: 川崎 麗 在住: 和歌山県和歌山市 生年月日: 2002年10月
3) Riku 本名: 川本 陸 在住: 岡山県岡山市 生年月日: 2002年10月	3) Moe 本名: 田中 萌 在住: 香川県丸亀市 生年月日: 2000年10月
4) Mikado 本名: 若勢拓海 在住: 福島県二本松市 生年月日: 2002年9月	4) Az 本名: 伊吹 梓 在住: 埼玉県さいたま市 生年月日: 2000年9月
5) Taichi 本名: 堀 泰致 在住: 福岡県久留米市 生年月日: 2001年1月	5) Nao 本名: 魚地菜緒 在住: 東京都江東区 生年月日: 2000年2月



ブレイキン日本代表結団式

後列 MIKADO SHOYA SHIGEKIX TAICHI RIKU
前列 RAM AZ MOE URUHA NAO

第2次予選となる大陸別予選は、大きくアメリカ大陸大会（アメリカ：フィラデルフィア）、ヨーロッパ・アフリカ大陸大会（ドイツ：エッセン）、アジア・オセアニア大陸大会となります。一次予選を通過したB-Boy/B-Girlから各大陸それぞれ男子20名、女子10名を選抜します。各国ごとの選抜上限は、男子3名、女性2名です。既に、ヨーロッパ大陸大会、アメリカ大陸大会は終了し、12月2日に行なわれたアジア大陸別予選大会が最後の大陸選手権となり、韓国、中国、台北、フィリピン、マレーシア等アジア・オセアニア各地から

選出された強豪が出場するなか、世界でも最高レベルにある日本代表は持てる力をいかに発揮しました。男女ともに日本代表が優勝し、最終予選にあたる2018年5月、WDSF世界ユース選手権には国別最多枠となる5名（男子3、女子2）の出場枠を獲得しました。日本選手団は、世界でもトップレベルの選手を多く輩出するユースオリンピックメダルの最有力候補なのです。最終予選となる世界ユース選手権には、アジアから男子20名、女子10名がノミネートされました。



表彰式



Shigekix半井重幸



Ram河合来夢



観客

B-Boyの部 結果

優勝：Shigekix：半井重幸（日本）

準優勝：KennyG（台湾）

第3位：Shoya：金森翔也（日本）

第4位：Riku：川本 陸（日本）

（国別3位までがWDSF世界ユースに出場）

B-Girlの部 結果

優勝：Ram：河合来夢（日本）

準優勝：Yell（韓国）

第3位：Uruha：川崎 麗（日本）

第4位：Nao：魚地菜緒（日本）

（国別2位までがWDSF世界ユースに出場）



実力をいかに発揮した日本代表選手団



★2018年

ブエノスアイレスユース五輪への最重要マイルストーン！

【大会概要】

大会名称：WDSF世界ユースブレイキン選手権大会

英語名称：WDSF World Youth Breaking Championships

開催日：2018年5月20日（日）

開催場所：「Culttzかわさき」川崎市スポーツ・文化総合センター

参加選手：3つの大陸大会で選出された男子60名、女子30名が2018年5月20日、日本の川崎市に集結。ブエノスアイレス ユースオリンピックの出場枠となる男子9名、女子9名のイスをかけて戦います。この世界選手権を通過できる各国枠は、男女それぞれ1名のみです。

★ユースオリンピック本大会

2018年10月、ブエノスアイレスにてユースオリンピック本大会が行なわれます。世界選手権を勝ち上がった男女各9名に、まだ未開発の地域の中での優秀な選手を救うために設けられた三者委員会招待推薦枠（ユニバーサリティ）各2名とアルゼンチンから開催国枠各1名を加えた男女各12名がメダルをかけて戦います。



平成29年度ランキング競技結果・平成30年度JDSF競技会について

例年のように、平成29年度のJDSFランキング競技会の結果、平成30年度 JDSF競技会予定及び2018年版競技関連規程集の主な改訂点についてご報告いたします。

平成29年の年間競技会開催回数はDSCJ公認・承認競技会あわせて289回（内1回は選挙で中止、昨年309回）、JDSF主催は203回（公認199回、承認3回、普及1回）プロ団体86回（JPDSA61回、NJDC25回）となりました。

平成30年度のJDSF公認競技会予定表は11月29日に各ブロック、都道府県連盟に通知いたしました。

この予定表に掲載されている競技会はJDSF公認競技会の予備（仮）公認を得ていますので、開催日3ヶ月前までに、正式な申請を行い、その内容に競技規則・規程等の違反がなく、競技会開催に問題がなければ正式にJDSF公認競技会となります。



競技本部長
山口 剛

- 1) 29年度JDSFランキング競技の結果（次頁）
- 2) 30年度JDSFメイン競技会及びJDSF主催競技会予定。

JDSFメイン競技

JPDSA主催

- 7/16 JPDSAアジアワールドダンススポーツフェスティバル（WDSF OPEN、ユース10ダンス）
[ホテルイースト21]
- 8/26 JPDSA西部主管 スーパーダンスフェスティバル
[大阪：不死王閣グリーンホール]

NJDC主催

- 4/29 NJDC ダンス選手権 [埼玉：アスカル幸手]

JDSF主催

- 2/25 東京オープンダンススポーツ選手権 [東京体育館]
- 4/1 ダンススポーツグランプリin大分 [べっぴんアリーナ] La*
- 5/13 ダンススポーツグランプリin大阪 [不死王閣] St*
- 7/22 ダンススポーツグランプリin静岡 [浜松アリーナ] St*
- 9/16 ダンススポーツグランプリin仙台 [青葉体育館] La*
- 9/23 ダンススポーツグランプリin北海道 [北海きたえーる] St*
- 11/25 三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権大会 [駒沢体育館] St & La*

※印はダンススポーツランキング競技です。

JDSF-PD主催

- 11/18 JDSF PD Japan Dance Trophy [福岡：宗像ユリックス]

メイン競技以外のJDSF主催競技

- 1/14 全日本シニア10ダンス選手権 [京都：伏見港公園体育館]
- 6/3 全日本10ダンス選手権 [愛知：津島市体育館]
- 7/14 世界シニアIV選手権 [長野：ホワイトリング]
- 7/29 第13回オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ [BumB 東京スポーツ文化館]
- 10/21 第26回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会 [福井市体育館]
- 11/25 第31回ねりんピック [富山：氷見市ふれあいスポーツセンター]

※2018年国際派遣選考競技会

2018年度国際派遣選考競技会は部門別に下記の一覧表のとおりとなりました。

代表派遣を目指す選手の皆様は良くご覧になり、予定を立て奮ってご参加ください。

なお、平成24年からジュニアSt、Laの選考は、グランプリ大阪、オールジャパンジュニアDSカップ、三笠宮杯全日本選手権ジュニアの3大会のポイントにより選抜されることとなっています。

また、平成27年よりユースSt、La代表選考は、グランプリin静岡の全日本選手権ユース、オールジャパンジュニアダンススポーツカップ及びグランプリin仙台的ユース区分の3大会のポイントにより選考とすることになりました。

2018年	グランプリ in 大分 (べっぴんアリーナ) 4月1日	グランプリ in 大阪 (不死王閣) 5月13日	グランプリ in 静岡 (浜松アリーナ) 7月22日	オールジャパン ジュニアDSカップ (BumB 東京スポーツ文化館) 7月29日	グランプリ in 仙台 (青葉体育館) 9月16日	グランプリ in 北海道 (きたえーる) 9月23日	三笠宮杯 (東京体育館) 10月8日
グランプリ スタンダード		○	○			○	○
グランプリ ラテン	○				○		○
シニアI スタンダード	○				○		
シニアI ラテン		○				○	
ユース スタンダード			○	○	○		
ユース ラテン			○	○	○		
ジュニア スタンダード		○		○			○
ジュニア ラテン		○		○			○
ジュニア 10ダンス			○				

※2018年度世界10ダンス選手権への派遣選考会は、2018年6月3日 津島市体育館で開催されます。

※世界シニア10ダンス選手権への派遣選考会は、2018年1月14日 京都伏見港公園体育館で開催されます。

※2019年度世界ユース10ダンス選手権への派遣選考会は、2018年7月16日（月・祝）のJPDSA主催アジアワールドスターズダンススポーツフェスティバル（場所：ホテルイースト21）で開催されます。

※世界ユース選手権/ジュニア選手権スタンダード・ラテンへの派遣選考は、代表派遣をする世界選手権開催日3ヶ月前を起点とした3大会のポイント結果により選考します。

※2019年度世界シニアIIの派遣選考会は、2018年2月24日（土）ダンススポーツフェスティバルin東京（東京体育館）で開催されます。

※世界シニアIIIの派遣選考会は、2018年7月15日（日）世界シニアIV選手権（長野：ホワイトリング）で開催されます。

※世界シニアIVの派遣選考会は、2018年6月17日（日）西部ブロック選手権（大阪：不死王閣）で開催されます。（スタンダードのみ）

以上のことをしっかりとご確認の上で、JDSF競技会にふるって参加して頂き、JDSF競技会がなお一層活性化されますことを願っております。

3) 競技関連規程集について

本年も競技会主催者、競技役員用の競技関連規程全てを掲載した「2018年版JDSF競技関連規程集」を発行致しました。競技長始め競技会を運営される方はよくお読みになり、競技会開催時には是非お手元において、お役立て下さい。

今まで登録選手の皆様に配布されていた「選手用競技関連規程集」は2016年より廃止となりました。

2018年競技関連規程集の 主な改訂点及び改訂内容

2017年までのDSCJ競技規則が、JDSF競技規則に統合されました。これに伴い、改めて全ページの内容を見直し、広範囲の検討を実施しました。さらに、関係性の深いページがまとまるよう、ページの差し替えも行いました。

- (P1～7) **競技規則 (JDSF競技規則)**
2017年の規程集P1～P5とP12～P17の内容が統合され内容の見直しがされた。
- (P6) **42条 選手の移籍**
現所属の承認がなくても、受け入れ先の同意があれば移籍できなくなった。
すべてが自由ではないので「会員の移籍に関する規程」で確認を(JDSFホームページ参照)。
- (P7) 「本規則で使われる文言の解釈と重要表現」の内容を検討し11項目に増やした。
- (P8～9) **A～C級戦、シニアIA級戦は、最終予選から所定の種目を実施することとなった。**
3級戦を除きいかなる区分も、単科戦での実施は廃止となり、所定の種目を実施することとなった。
- (P10～12) **昇降級規程**
注記事項の中で、重要と思われるものを条文として改め、3項目を附則とした。

昇級基準と降級基準をページごとにまとめ、見やすくした。JA級の降級基準の見直しをした。

- (P14) **内規 第1条の3**
C級,D級の2区分開催は、都道府県単位(PD含め)で各級年間2回までとなる。
- (P17) **罰則規程 第2条の1,2の内容を変更した。**
- (P20) 服装規程のラテン女子のページを訂正した。
・パンティーラインの違反者に対して、写真も加え判定しやすくした。
- (P45) **ブロックランキング規程 第2条の1 ブロック選手権に(PDブロック選手権を含む)を追記した。**
- (P59, 60) **登録管理規程が改訂された。**
・認定サークルの本部報告と、サークル認定証の発行が廃止された。(条文削除)
- (P64, 66) **ジュニア強化選手の認定と選考基準が改訂された。(上期、下期を廃止)**
- (P68, 69) 「会費に関する規程」と「登録料に関する規程」が改訂された。
- (P73) **電子申請時のミスを減らすために、シラバス作成上の注意点をわかりやすくした。**
・特に注意を要する2018年変更項目を太字とし、更に説明文も加えた。
・競技内容の区分を変え、参考事例とした。
- その他
・大幅改訂で改定内容が多数につき、下線は重要と思われる部分のみとした。
・DSCJの文言が60数か所あったが、JDSFに変更された箇所の下線は煩雑なので省略した。
・文言や数字等の加除訂正、及び配列の訂正、変更をした。

以上

2017年度JDSFランキング競技の順位結果

全日本ダンススポーツランキング

●スタンダード

1位	小嶋みなと・盛田めぐみ	神奈川
2位	大西 大晶・大西 咲菜	富山
2位	藤井 創太・吉川 あみ	千葉
4位	八谷 和樹・皆川 円	千葉
5位	渡辺 安登・石垣 真衣	フルボン DST/千葉
6位	山田 恭平・秋山 彩織	東京
7位	菅原 一樹・Laura Collavizza	東京
8位	寒河江貴大・熊木 美和	埼玉
9位	加地 渉・今橋 沙希	埼玉
10位	佐藤 祐馬・久保田理沙	東京

●ラテン

1位	藤井 創太・吉川 あみ	千葉
2位	八谷 和樹・皆川 円	千葉
3位	渡辺 安登・石垣 真衣	フルボン DST/千葉
3位	大西 大晶・大西 咲菜	富山
5位	大久保稔也・吉村 春香	東京
6位	千葉 海都・千葉 琳花	岩手
7位	押川 慧悟・和田 知世	神奈川
7位	海老原拳人・タカギルナ	千葉
9位	濱田 琉衣・稲村 百花	栃木
10位	名越 慎悟・名越 明子	神奈川

全日本選手権シニア (世界戦第1代表選考)

●スタンダード (グランプリ in 大阪)

1位	野口雄一朗・奥野 亮子	東京
2位	高杉 耕一・高杉 綾子	東京
3位	村川 明・村川 絢子	神奈川
4位	森川 豊則・鈴木 悠夏	大阪
5位	大東 哲平・大東 くに	神奈川
6位	名越 慎悟・名越 明子	神奈川

●ラテン (グランプリ in 大分)

1位	名越 慎悟・名越 明子	神奈川
2位	岸 英明・田中 志保	東京
3位	宗形 隆史・宗形 葉子	埼玉
4位	永井 孝明・永井 優子	茨城
5位	佐藤 寿一・佐藤美奈子	岡山
6位	河野弦二郎・河野 サヨ	京都

全日本選手権シニア (世界戦第2代表選考)

●スタンダード (グランプリ in 北海道)

1位	村川 明・村川 絢子	神奈川
2位	高杉 耕一・高杉 綾子	東京
3位	大東 哲平・大東 くに	神奈川
4位	名越 慎悟・名越 明子	神奈川
5位	植畑 祐介・平野 貴子	奈良
6位	西 幸作・田上 ユミ	埼玉

●ラテン (グランプリ in 仙台)

1位	岸 英明・田中 志保	東京
2位	山本 哲郎・工藤由美子	東京
3位	河野弦二郎・河野 サヨ	京都
4位	宗形 隆史・宗形 葉子	埼玉
5位	白井 泰昭・石井かおり	神奈川
6位	谷茂岡 敦・谷茂岡智絵	東京

全日本選手権10ダンス

1位	八谷 和樹・皆川 円	千葉
2位	大西 大晶・大西 咲菜	富山
3位	Mario DeRose・三橋 櫻	千葉

4位	金井 大輝・甘利このみ	群馬
5位	千葉 海都・千葉 琳花	岩手
6位	太田 歩生・太田なごみ	北海道

ユースランキング

●スタンダード

1位	渡辺 安登・石垣 真衣	ブルボン DST/千葉
1位	五月女光政・五月女観佳	ブルボン DST/栃木
3位	日比野 湧・和野 歩未	ブルボン DST/千葉
4位	濱田 琉衣・稲村 百香	栃木
5位	石垣 和宏・三喜穂菜美	ブルボン DST/千葉
6位	野地 雅人・鹿野田 花	福島

●ラテン

1位	渡辺 安登・石垣 真衣	ブルボン DST/千葉
2位	五月女光政・五月女観佳	ブルボン DST/栃木
2位	濱田 琉衣・稲村 百香	栃木
4位	石垣 和宏・三喜穂菜美	ブルボン DST/千葉
5位	日比野 湧・和野 歩未	ブルボン DST/千葉
5位	野地 雅人・鹿野田 花	福島
5位	千葉 隆矢・降旗 友希	岩手

全日本選手権ユース10ダンス

1位	渡辺 安登・石垣 真衣	ブルボン DST/千葉
2位	五月女光政・五月女観佳	ブルボン DST/栃木
3位	日比野 湧・和野 歩未	ブルボン DST/千葉
4位	濱田 琉衣・稲村 百香	栃木
5位	石垣 和宏・中村 安里	ブルボン DST/千葉
6位	柴木 毅門・井上 乃天	神奈川

全日本選手権ジュニア10ダンス(グランプリin静岡)

1位	五月女光政・五月女観佳	ブルボン DST/栃木
2位	濱田 琉衣・岡田 愛彩	栃木
3位	太田 佳輝・那須野姫佳	長野
4位	長谷川 悠・安達あん珠	富山
5位	渡邊 俊介・中村 安里	千葉
6位	上岡 裕人・中澤 爽	千葉

ジュニアランキング

●スタンダード

1位	五月女光政・五月女観佳	ブルボン DST/栃木
2位	太田 歩生・太田なごみ	北海道
3位	長谷川 悠・安達あん珠	富山
3位	渡邊 俊介・中村 安里	千葉
5位	上岡 裕人・中澤 爽	千葉
5位	太田 佳輝・那須野姫佳	長野

●ラテン

1位	五月女光政・五月女観佳	ブルボン DST/栃木
2位	長谷川 悠・安達あん珠	富山
2位	太田 歩生・太田なごみ	北海道
4位	太田 佳輝・那須野姫佳	長野
5位	上岡 裕人・中澤 爽	千葉
6位	渡邊 俊介・中村 安里	千葉

全日本選手権ジュブナイル(三笠宮杯)

●スタンダード

1位	ホワイティン謙心・ホワイティン夏奈実	神奈川
2位	久保 力也・大西陽来里	富山
3位	濱田 琉成・岨 桜	栃木
4位	齋藤 隼一・濱田 安珠	千葉
5位	岡田 悠希・鮫島 粹良	神奈川
6位	椎名 温俊・椎名 美咲	茨城

●ラテン

1位	ホワイティン謙心・ホワイティン夏奈実	神奈川
2位	渡邊 裕太・山岡 愛生	千葉
3位	岡田 悠希・鮫島 粹良	神奈川
4位	津田琥汰朗・津田マリア	大阪
5位	久保 力也・大西陽来里	富山
6位	濱田 琉成・岨 桜	栃木
7位	今西 竜矢・大川 眞子	神奈川

ブロックランキング

北海道

●スタンダード

1位	太田 歩生・太田なごみ	北海道
2位	稲垣 浩・伊藤千恵美	北海道
3位	小林 進・小林 麻理	北海道
4位	蒲生 徹・川村 一桜	北海道
5位	福士 博司・福士 清子	北海道
5位	高橋 義幸・高橋 陽子	北海道

●ラテン

1位	太田 歩生・太田なごみ	北海道
2位	福永 茂樹・工藤恵美子	北海道
3位	大木 大樹・大木 風香	北海道
4位	阿部 涼太・佐野未友果	北海道
5位	多田 浩二・多田 華	北海道
6位	蒲生 徹・川村 一桜	北海道

東北

●スタンダード

1位	野地 雅人・鹿野田 花	福島
2位	松浦 龍騎・松浦優莉華	宮城
2位	千葉 海都・千葉 琳花	岩手
4位	齋藤 弘美・齋藤くみ子	福島
4位	千葉 英明・千葉 順子	岩手
6位	山下 和男・山下千佳子	岩手
6位	菅野 忠司・安藤登美子	山形

●ラテン

1位	野地 雅人・鹿野田 花	福島
2位	千葉 海都・千葉 琳花	岩手
3位	松浦 龍騎・松浦優莉華	宮城
4位	熊谷 義昭・熊谷 正子	福島
4位	中島 栄英・荒井かおり	福島
6位	千葉 隆矢・佐藤 優水	岩手

関東甲信越

●スタンダード

1位	寒河江貴大・熊木 美和	埼玉
1位	金井 大輝・甘利このみ	群馬
3位	日比野 湧・和野 歩未	ブルボン DST/千葉
4位	高杉 耕一・高杉 綾子	東京
4位	新井 光斗・城田夕希穂	群馬
6位	柴木 毅門・井上 乃天	神奈川
6位	岩崎 将之・富岡 采花	神奈川
6位	米積 雄大・和田みさり	東京

●ラテン

1位	金井 大輝・甘利このみ	群馬
2位	新井 光斗・城田夕希穂	群馬
3位	福馬 智生・泉名 咲瑛	東京
4位	山本 哲郎・工藤由美子	東京
5位	柴木 毅門・井上 乃天	神奈川
6位	渡辺 安登・石垣 真衣	ブルボン DST/千葉
6位	小松 久哲・赤羽ゆいり	長野

中部

●スタンダード

1位	大西 大晶・大西 咲菜	富山
2位	小林 潤一・武崎 聖恋	富山
3位	森 晃士・森 仁美	三重
3位	高木 克之・日下貴志子	愛知
5位	鈴木 宏之・岡田 敦子	愛知
6位	石川 鎮一・石川 敦子	愛知

●ラテン

1位	大西 大晶・大西 咲菜	富山
2位	小林 潤一・武崎 聖恋	富山
2位	森 晃士・森 仁美	三重
4位	村上 和穂・金子 真弓	愛知
5位	フオンダジョンS・フオンダジェミーJ	愛知
6位	松下 茂・松下知英子	愛知

西部

●スタンダード

1位	谷口 主嘉・谷口小夜子	京都
2位	青井 昭博・田中喜美子	滋賀
3位	川本 竜・川本 弥由	奈良
4位	加藤 修久・加藤 裕子	大阪
4位	小島 誠・小島 美苗	大阪
6位	竹内 厚人・竹内 妙子	大阪

●ラテン

1位	宮本 俊・田中えり奈	愛媛
2位	佐藤 寿一・佐藤美奈子	岡山
3位	大矢部廣昭・中川 弘美	大阪
3位	長野 温斗・西川 愛梨	京都
3位	川本 竜・川本 弥由	奈良
3位	津田琥汰朗・津田マリア	大阪

九州

●スタンダード

1位	津崎 伸宏・津崎光佐子	熊本
2位	甲斐他美夫・甲斐 幸子	福岡
2位	徳野 一也・下河邊衣津子	福岡
2位	山口 修平・山口 杏奈	福岡
5位	藍澤 寛一・藍澤 和子	大分
6位	岡田 浩・岡田 素子	熊本
6位	山下 章玄・山下 里美	長崎

●ラテン

1位	中川 明・中武 ゆか	熊本
1位	藤重 哲哉・藤重 恵子	福岡
3位	富岡 富明・高橋 千鶴	熊本
4位	田代 尚大・林田 薫	福岡
4位	川内 博史・新西 妙子	鹿児島
6位	西脇 達也・玉利 伸子	福岡
6位	水上喜代志・野北 結花	福岡
6位	中村 辰郎・中野久美子	鹿児島

2017ジュニアダンスフェスティバルin静岡

2017年11月19日(日)／沼津市ラウンジひまわり

JDSFジュニア育成部長

静岡県ダンススポーツ連盟 副会長 溝口 稔



ダンススポーツの将来を考えたとき、ジュニア層の開発、育成は非常に重要であり、静岡県では15年前から小林英夫先生をお招きして、子どもたちに「ダンスうんどう」から、「ダンススポーツ」へと、開発・育成の活動を始めました。

当初、順調に発展して、静岡県からも「全国子どもダンスうんどう大会」で日本一になるなど活発な活動と成果を上げることが出来ました。しかしながら、ジュニア育成は、少子化時代と趣味やスポーツの多様化の余波で、だんだんと下降線となり、現在はやや困難な状況になってきたのが現状です。一方ダンススポーツの国体種目化が現実を帯びようになり、ジュニア層の育成は待ったなしになって参りました。

静岡県ダンススポーツ連盟では、日本のダンス界が閉鎖的でしかも敵対的な活動ばかりしては、将来のダンス界を担う若年層の育成を図ることに限界がくると考えました。また、将来国体ダンスの種目化を目指して、それが実現したときに、国体の選手団は少年A（中3、高1）少年B（高2、3）青年（大学以上）等、若い選手が中心となっていることを考えると、現状のままでは国体に静岡県として優秀な選手を送り込むことが困難になると思われ、新たな方策で若年層の開発育成を図ることが必要と考えました。

そこで、静岡県の中核レベルで活動してきている「静岡県ボールルームダンス連盟」と「静岡県ダンススポーツ連盟」がお互いに協力し合って、ジュニア層の開発育成に取り組む活動を始めたいということを提案し、意見が一致しジュニア育成のための連絡協議会が本年5月に発足しました。

そしてその第一歩として、両団体が共催して11月19日、「ラウンジひまわり」において「2017ジュニアダンスフェスティバルin静岡」を開催する運びとなりました。小学生1～4年生の部（メレンゲ、サルサ、ワルツ、クイック）小学5、6年生の部（ワルツ、クイック、サンバ、チャチャチャ）、中学生の部（スタンダード、ラテン）、ジュニア（スタンダード、ラテン3種目）、ユース（スタンダード・ラテン5種目）、ソロダンス（小学生サンバ、チャチャチャ）、（中学生サンバ、チャチャチャ）リズム体操団体戦を行ないました。

出場組数延べ86組、ソロダンスは延べ95人、キッズダンス、リズム体操団体戦3チームが出場しました。

特筆すべきは10ダンスの他にキッズダンス、ヒップホップの演技披露も行なうこ

とが出来たことでした。いくつかのヒップホップの団体に演技発表のお願いの声をかけて、3チーム（全部で41人の子ども）が発表してくれることになりました。

競技では、子どもたちは同じ年代の仲間負けまいと懸命に踊っていました。中には普段練習では見られないような踊りをする子もいて、指導者もびっくりです。また、初心の子どもたちは同じ年代の選手の頑張りに目を見張り、真剣に見ていました。

キッズダンスの子どもたちも、ダンススポーツの踊りを熱心に見ていたと指導者から聞きました。ご父母など保護者の方も大勢見えて、子どもたちや孫たちの踊りに感激して、大変盛り上がりました。

この成果を弾みとして、今後10ダンスのみならず、キッズダンス、ヒップホップの子どもたちとも仲間になって頂き、手を携えてダンス界の発展を目指したいと思います。

11月20日付の静岡新聞

来年のこの大会は、静岡市「グランシップ」交流ホールで11月4日に開催する予定です。今後も続けて、静岡県ボールルームダンス連盟と協力して、ジュニア層の育成・発展に励みたいと考えています。組織の垣根を越えて、ジュニア育成を行なっていく一例として、参考にして頂ければ幸いです。



ジュニアダンスフェスティバルに参加する子どもたち



11月20日付の中日新聞



役員、入賞選手の皆さん
(前列左端が筆者)

第19回関東甲信越ブロック選手権

2018三笠宮杯選抜戦・2017関東甲信越ブロックランキング対象競技会

2017年11月5日(日)／栃木県立県南体育館



挨拶する大久保寿夫
小山市長

関東甲信越ブロックとは1都(東京都)9県(千葉、神奈川、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨、長野、新潟)であり、日本の中心を形づくりJDSF全国会員数の約50%占めている重要な地域です。開催にあたり、大久保寿夫小山市長は、栃木県の誇る結城紬の着物、羽織、袴姿で登場され、栃木県は平成26年、「スポーツ都市」宣言を行ない、「市民ひとり1スポーツ」を目指し、「スポーツによる小山のまちづくり」を推進しています。会場の栃木県立県南体育館は10都県の選手の熱気が溢れました。呼び物の団体戦はスタンダード(St)、ラテン(La)各10チーム合計20チームが出場し優勝争いは熾烈を極めました。東京都がSt、La共に1位となり、総合優勝、準優勝は神奈川県、埼玉県がLaの好成績で新潟

県を抑えて第3位に輝きました。個人戦スタンダードA級戦は山田恭平・秋山彩織組(東京都)、ラテンA級は渡辺安登・石垣真衣組(ブルボンDST／千葉県)が優勝。去る6月25日、JDSF創立40周年記念式典で司会を務めた山本匠晃(TBSアナウンサー)は江川清音さんとB級Stに出場し、テレビカメラも入り、会場を沸かせました。来年は神奈川県での開催です。



山本匠晃・江川清音組(東京都)とコーチの山本武志・木嶋友美組、小野武伸栃木県連盟会長、居樹保朗大会会長(関東甲信越ブロック委員長)、山口剛競技本部長、神宮周二広報部顧問



関東甲信越ブロック選手権(A級戦)スタンダード表彰式

- 優勝 山田恭平・秋山彩織 組(東京都)
- 準優勝 寒河江貴大・熊木美和 組(埼玉県)
- 第3位 濱田琉衣・稲村百香 組(栃木県)
- 第4位 日比野湧・和野歩未 組(ブルボンDST／千葉県)
- 第5位 綾野晃志郎・大澤 栄 組(東京都)
- 第6位 熊谷光晃・柏尾明日香 組(東京都)



山田恭平・秋山彩織 組(東京都)



寒河江貴大・熊木美和 組
(埼玉県)



濱田琉衣・稲村百香 組
(栃木県) (同La第3位)



大久保稔也・吉村春香 組
(東京都)



渡辺安登・石垣真衣 組
(ブルボンDST／千葉県)



関東甲信越ブロック選手権(A級戦)ラテン表彰式

- 優勝 渡辺安登・石垣真衣 組(ブルボンDST／千葉県)
- 準優勝 大久保稔也・吉村春香 組(東京都)
- 第3位 濱田琉衣・稲村百香 組(栃木県)
- 第4位 海老原竜太・遊佐美優子 組(千葉県)
- 第5位 新井光斗・城田夕希穂 組(長野県)
- 第6位 泰永圭吾・牧野果礼 組(群馬県)

団体戦 総合優勝 東京都



全10都県からスタンダード、ラテンそれぞれ10チームずつが参加し争われました。出場各都県の応援合戦も熾烈を極め、盛り上がりしました。総合優勝は東京都が勝ち取りました。



地元栃木県をはじめ、水戸黄門様も登場した茨城県、地元ゆるぎやら「トッキキ」のうちを振る新潟県の応援!

B級戦スタンダード表彰式



優勝

須藤純弥・高瀬由子 組
(栃木県)

山本匠晃・江川清音 組(東京都)

山本匠晃アナは「今日の大会で来年度A級昇格を決めることができました。大変嬉しいことですが、連続優勝で飾りなかったので、誠に悔しいです!」と話してくれました。

準優勝



シニアⅢA級戦スタンダード表彰式



シニアⅢA級戦ラテン表彰式

B級戦ラテン表彰式



プレジュニア スタンダード表彰式



プレジュニア ラテン表彰式

優勝

小澤玲音・矢崎 響 組
(山梨県)

キラ星みつけた!

(写真右から)

角谷清馬くん(小学6年)、
斉藤美音ちゃん(小学5年)、
角谷勇紀くん(小学1年)、
斉藤愛心ちゃん(小学3年)

プレジュブナイルのスタンダードとラテンに出場の角谷兄弟と斉藤姉妹の茨城県から出場の2カップルです。中学まではダンスをやりたいという兄・姉組は2競技ともに準優勝に輝きました。弟・妹組は、まだ10か月ですが、ラテンが好きでこれからも頑張りたいという仲よし4人組です。



関東甲信越ブロック会議

大会前日の11月4日(土)は、小山グランドホテルで関東甲信越ブロック会議が開催されました。

My Dream

関東甲信越ブロック選手権(A級戦)スタンダード優勝

山田恭平・秋山彩織組(東京都)

4度目の出場にして、関東甲信越ブロック選手権スタンダードの部で初優勝することができ、また東京都代表として団体戦でも優勝することができ、大変嬉しく思います。

私たちカップルは、お互い2008年に早稲田大学に入学、競技ダンス部に入学しダンスを始めました。2年生時にカップルを結成し、現在まで約8年間パートナーシップを続けてきました。カップル結成当時は全く成績が上がらず、3年生になるまで、全ての試合で予選落ちを繰り返してまいりました。今振り返ると、この時期に、コーチの石原正三・渋谷透子先生の「1秒でも長くフロアに立て」、そして「最大限体を使って踊れ」という言葉を信じ、がむしゃらに練習に打ち込んだことが、後の競技人生の基盤を形成したと感じております。3年生以降は、少しずつ成績が向上し、4年生時には学生競技ダンスにおける最大の目標であった夏の全日本学生選抜選手権で優勝。この大会で優勝したことにより、もしかしたらアマチュアでも活躍できるのではないかと、良い意味での勘違いが生じ、学連時代よりも長く険しいアマチュア競技生活に足を踏み入れました。アマチュアでダンスを続けると決断した際には、「強化選手になりたい」、「JAPANのジャージを着たい!」という目標が、大きなモチベーションの一つでした。就職活動、修士論文、社会人生活など様々な環境の変化がある中で競技を続け、学連を卒業してから2年半後、強化選手に認定して頂きました。初めて日の丸が入ったJAPANジャージを受け取ったときは、本当に感激しました。

2012年、三笠宮杯で初ファイナルに入ることができたことも、心に残る思い出です。

現在私たちはお互いフルタイムで働いており、練習は仕事が終わった後に平日約2時間、休日3~4時間行なっております(秋山彩織さんは早稲田大学大学院先進理工学研究科を卒業後、現在は都内で事務職員としてフルタイムで働いています)。

学生の頃と違って、自由に使える時間が短くなったこともあり、フロアで集中することはもちろん、空いた時間に練習のプランを考えたり、動画をみて研究をする等、練習場以外の時間を如何に工夫できるかが、上達において大切だと考えております。

今後の目標ですが、自分たちにしかできない踊りを追及し、世界でも通用するダンサーを目指したいです。ここ数年、年に3回リトアニアへ行き、WDSF-PD世界2位のドナタス・リナ組に師事しております。彼らのように、テクニック、エネルギー、そして、表現力を持ち合わせたダンサーが目標です。また最近では、指導のほうにも興味が出て参りました。近年、学連を卒業してアマチュアで競技を続ける選手が少なくなってきておりますが、将来的に私たちの経験を活かし、学連出身からアマチュアダンス界で活躍できる選手を育成できれば、とも考えております。

ダンスを始めて来年で10年になりますが、今後もダンスをひたむきに追求し、競技の緊張感を味わい、そして、純粋に踊ることの楽しさを忘れずに、永らくダンスに携わっていければと思っております。



秋の叙勲

前熊本県ダンススポーツ連盟会長 松尾日出男氏が瑞宝中綬章！

勲章(左)
勲記(瑞宝中綬章賞状)(右)

秋の叙勲で、瑞宝中綬章という叙勲を頂きました。11月10日、国立劇場大劇場で文部科学大臣からの勲章・勲記の伝達があり、その後、皇居での拝謁がありました。

受賞が決まったとき、なんで自分が対象となったのかと思いました。その後分かったことですが、対象基準は「多年の教育研究に従事し国家又は公共に対する功労が顕著であり、かつ、大学の教授としての在職年数が15年以上」ということ。

講義をし、卒業研究を指導し、後に続く研究者を育成する…。また、自分自身の研究を行ない成果を発表する。学会(主として日本航空宇宙学会)の役向きに関わる等々、大学教官として当然のこととして携わってきました。幸いなことに、これまでに教授2人、助教授1人を育てることができました。私の研究活動に対する彼らの寄与について大変感謝しています。

私が密かに誇りにしていることは、30年間に亘って、大学の正規課外活動である舞踏研究部(競技ダンス部)顧問、コーチをやってきたことです。学科と舞踏研究部と両方で関わった学生の数、交わした会話の時間…、これを考えると、私は通常の教官の倍に匹敵する期間、大学にいたことになります。これは幸せなことであったと思います。

また、JDSFの活動に関われたことも幸運で、初代JDSF九州ブロック運営委員長、初代熊本県ダンススポーツ連盟会長等を就任しました。舞踏研究部、JDSFでの活動に対して、熊本県体育協会からスポーツ功労賞を頂きました。現在はア

マチュア選手の指導育成、全九州学生競技ダンス連盟の活動等に関わっています。受章を聞いたアマチュア選手の皆さんが、早々に祝賀茶話会を開いてくれました。大変嬉しかったです。しかも明日が競技会と言う日に…。

研究教育、舞踏研究部、JDSFとそれぞれに関して思う自分の活動ができたことは、妻・政江のサポートのお蔭だと思っています。天皇陛下に拝謁できるという名誉に浴したとき、このことをしみじみと感じました。

前熊本県ダンススポーツ連盟会長 松尾日出男

【略歴】 昭和12年1月16日生まれ(80歳)
昭和34年 九州大学工学部卒業
昭和36年 九州大学大学院工学研究科修了
同年4月 三菱造船株式会社(現三菱重工)入社
我が国初のホバークラフトの開発に従事
商用艦建造のため
三菱重工神戸造船所に転勤
昭和43年 熊本大学工学部
衝撃波収束問題研究 工学博士
平成14年 熊本大学退官 熊本大学名誉教授
以後、崇城大学、熊本県立科学技術短大非常勤講師



松尾日出男氏と夫人



祝賀茶話会



ゴールデン フィットエンビ

美しいシルエットを追求！
さらに進化した光沢シャドー스트ライプエンビ。
プロも絶賛したスリムエンビを
是非一度お試しください！

No.50070
価格 ¥178,000+税
サイズ YA体・A体・AB体

モデル:三輪嘉広先生

東京・秋葉原



東京トリキン(株)

エンビのトリキン

TEL.03-3866-4854

FAX.03-3866-4033

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-4-1 <http://www.torikin21.com>
営業時間/月～金 10:00～18:30 土日祝 10:00～17:30

平成29年度全国加盟団体代表者会議(愛媛・松山市)



内閣総理大臣賞争奪「第25回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会 in 愛媛」の開催に先立ち、恒例となりました全国加盟団体代表者会議が前日の11月11日(土)、ホテルサンルート松山において13時より開催されました。

まず岸尾政弘総務部長より本日の会議の進行と、ご出席の玉置朝啓理事PD副本部長、浅野勉副本部長、早坂健一事務局長、西部ブロック林栄治郎委員長、佐伯浩一郎九州ブロック委員長など、PD本部の方々の紹介がありました。

会議に入り、最初はダンス環境を取り巻く環境の変化などを踏まえ、山田淳専務理事から「JDSFの重要課題と解決の方向性について」の解説がありました。予想以上のサークル会員の高齢化、団体や競技会役員・ボランティアの次世代を担う若手の役員候補不足、競技会出場者の減少⇒都道府県連盟の財政問題、ITツールや世間のトレンドやニーズに伴う役員の能力&人材不足、従来型ダンス教室の行き詰まり、これらによりこのまま放っていくと組織の崩壊に繋がらないとして、将来のために構造改革は必須、ダンス界の将来のために思い切って改革を進めましょうと、あらためてビジョン2024(特別重点項目)の紹介がありました。

続いて、金子和裕常務理事より「構造改革：サークル制度の見直しについて」の解説がありました。認定サークル規程改正の概要として、従来は、風営法の関係で活動が制約される懸念があったことから、サークル活動の目的を「ダンススポーツ」という文言に限定統一し、スポーツとしてアピールしてきたが、時代の経過とともに会員の高齢化や減少が進行。ダンスに対する向き合い方が多様化し、スポーツ以外の楽しみ方も推奨する必要が出てきたことから「社交ダンス」という文言を加え、いろいろな形態、態様のダンスを包含することとし、認定サークルの規定等の見直しについて推進していく旨の話がありました。



山田淳専務理事



玉置朝啓理事



蒲生志津雄競技部長

続いて中道俊之理事から、構造改革委員会の使命は“持続可能な組織運営と

するため、JDSF事業全般の構造改革が必要”として、「DSC/Aリーグ部の問題と個人会員の扱いについて」説明がありました。

JDSFの個人登録を可能とし、個人会員は、該当都道府県連盟に所属を割り振る。具体的には関東甲信越ブロックAリーグ部については発展的に解消し、個人登録等の手続きを含めて事務センター機能はそのまま、「会員サービスセンター」に移行する見通しです。

競技関連については山口剛理事競技本部長から、「2018年からの全日本統一級公認について」説明があり、従来のDSCJ全日本統一級は、2018年度からすべてJDSF公認の全日本ダンススポーツ統一級とし、全日本ダンススポーツ統一級公認審議委員会をJDSF競技本部の下に置く。さらにDSCJ委員会発足当時は競技選手も十分おり、それぞれの団体が独自に努力して競技会を多数開催することで普及にも効果があったが、ダンス人口の高齢化と急速な減少の中で、各公認競技会の規模が急激に縮小しており、都道府県連盟の事業体力も低下している背景があり、各団体が独立して縮小する市場を取り合う関係を是正、今後はJPDSA、NJDC主催公認競技会は2018年度も実施できるものとするが、都道府県連盟との密接な協力関係と相乗効果のため、競技会開催地と件数などについて、地域毎にゼネラルブロックとの話し合いを重視して進める。そして大同団結の一環として、その後はPDの一本化を目指す、と解説がありました。

その他、普及本部技術認定部からは、金城庸夫特任顧問より「技術認定ドリームステージと各コース開催支援について」、ダンススポーツ医科学研究部からは、「社交ダンスde健康長寿!」活動の取り組みについて竹島弘幸神奈川県連盟会長より解説がありました。

PD活動状況については玉置朝啓理事PD副本部長から、PDの安定化・組織拡大そしてPD競技会の推進やWDSF-PDとの連携強化等について説明がありました。

そして質疑応答が行なわれ、明日の大会要領などの説明がありました。さらに懇親会場においても、活発な意見交換が続きしました。

〈ビジョン2024(特別重点項目)〉

JDSFでは現在特に以下のことを重点に進めています。

- ①ダンススポーツのオリンピック正式種目化推進
 - ・弱点の克服、開催国支援、選手強化
- ②風営法改正にともなうダンス文化の再構築
 - ・非競技系の日常的ダンスの場の振興、飲食店/エンタテイメント系企業とのコラボレーション
- ③ダンススポーツとして他ジャンルダンスとの融合
 - ・ダンス全体の振興、コラボレーションと若年層の取込み

- ④従来型教室以外のダンス職業への道筋を開拓
 - ・新型教室事業の開拓、段階的教育メソッド(評価基準、テキスト)開発、選手のセカンドキャリア支援、ステージ・ダンスへの道筋開拓

- ⑤超高齢化社会に対応した医療費削減貢献(健康寿命延伸効果)
 - ・プログラムの策定、エビデンス取得、学会/行政とのタイアップ

- ⑥日本のダンススポーツ組織の集大成推進と国体参加の準備
 - ・アマプロ組織の融合、PD事業の活性化

内閣総理大臣賞争奪



スポーツ振興基金
公益財団法人日本スポーツ振興センター

第25回都道府県対抗 全国ダンススポーツ大会in愛媛

2017年11月12日(日)／松山総合コミュニティセンター体育館



前列右から井上教育長、山本衆議院議員、河合総合政策部長、後列右から金子常務理事、山田専務理事、越智愛媛県連盟会長

国内最大のスポーツの祭典である第72回国民体育大会は、9月30日から10月10日まで愛媛県において「愛顔（えがお）つなぐえひめ国体」として盛大に開催されました。

国体正式種目化を目指す公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）は、国体が開催された都道府県において毎年内閣総理大臣賞争奪全国都道府県対抗全国ダンススポーツ大会を実施しています。なお、この大会はスポーツ振興基金の助成を受けて開催されました。

開会にあたり、愛媛県ダンススポーツ連盟の顧問を務める山本順三衆議院議員は「ダンススポーツは、世代を超えて若々しく華やかなスポーツ競技であり、国体開催地松山での開催を嬉しく思う。松山は歴史と文化の薫る町であり、

その良さを満喫して欲しい」と挨拶がありました。愛媛県教育委員会の井上正教育長のご祝辞に続き、河合洋二松山市総合政策部長は、野志克仁松山市長の代理として「松山市は“一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市 まつやま”の実現を目指している。スポーツ性と豊かな芸術性を兼ね備えた美しいダンスで会場を大いに魅了していただきたい」と挨拶されました。

スタンダード競技から開始、個人戦のA級スタンダード、A級ラテンともに全日本トップレベルの選手が多数出場し熱戦となりましたが、両競技とも大西大晶・大西咲菜組（富山県）が実力を存分に発揮して優勝、文部科学大臣賞に輝きました。

また、シニアⅡA級スタンダード優勝の加藤修久・加藤裕子組（大阪府）と、シニアⅢスタンダード優勝の谷口主嘉・谷口小夜子組（京都府）には愛媛県知事杯が贈られました。

注目のPD部門はオレクシー グザー・太田吏圭子組（東京都ダンススポーツ連盟）が安定した強さを発揮し優勝に輝きました。

団体戦は、北海道から九州まで21都道府県からスタンダード21チーム、ラテン16チーム、合わせて37チームが参加し、大声援のなか熱戦が繰り広げられました。本年から年齢区分も少年A、B（高三以下同性同士も可）、成年（大学生以上）、シニアⅡ（45歳以上と40歳以上）、フリー（年齢オープン）に変わり若い力が目立ちました。結果は、東京都チームが総合優勝を飾り、ラテン1位と大健闘の神奈川県とスタンダード1位の千葉県が総合同点準優勝となり、優勝の東京都には山田淳専務理事から内閣総理大臣賞と優勝旗が贈られました。



地元、愛媛県選手団の入場



宮本俊・田中えり奈組
（愛媛県）の選手宣誓

松山は歴史と文化の薫る町であり、



★文部科学大臣賞に
輝きました！

大西大晶・大西咲菜組
（富山県）



★愛媛県知事杯に輝きました！

加藤修久・加藤裕子組
（大阪府）

谷口主嘉・谷口小夜子組
（京都府）

団体戦



総合優勝
東京都

東京都優勝コメント：中島洋子団長は「今年からルールが変わり選手を探すことから苦労しました。お陰様で皆さんに助けて頂き、素晴らしい選手に出場して頂くことが出来『ありがとうございます』の一言です。選手の皆さんの素晴らしいパフォーマンスを見ながら、また来年に希望をつないで帰ってきました。来年の福井大会もよろしくお願いします。



準優勝
（同点）
千葉県



準優勝
（同点）
神奈川県

A級戦 スタンダード



優勝 大西大晶・大西咲葉組 (富山県)
(同La優勝)



準優勝 山田恭平・秋山彩織組 (東京都)



第3位 太田歩生・太田なごみ組 (北海道) (同La4位)



第4位 佐藤祐馬・久保田理沙組 (東京都)



第5位 岩崎将之・冨岡采花組 (神奈川県)



第6位 池谷祐真・臼杵綾夏組 (千葉県)



第5位 押川慧悟・和田知世組 (神奈川県)



第3位 千葉海都・千葉琳花組 (岩手県)



第6位 海老原竜太・遊佐美優子組 (千葉県)

PDオープン スタンダード 表彰式



優勝 オレクシー グザー・太田吏圭子組 (東京都ダンススポーツ連盟)
準優勝 久保田弓椰・徳野夏海組 (TEAM YUMIYA北海道)
第3位 喜多田芳起・細田千代組 (ザ・ゴールデンパレス大阪)
第4位 高橋一昌・高橋由紀子組 (幸手K&Yダンスクラブ)
第5位 前田雅仁・宮崎梢組 (マドンナダンス倶楽部)
第6位 菊川想矢・菊川典莉子組 (阪田ダンススタジオ)



優勝 オレクシー グザー・太田吏圭子組 (東京都ダンススポーツ連盟)



準優勝 久保田弓椰・徳野夏海組 (TEAM YUMIYA北海道)



第3位 喜多田芳起・細田千代組 (ザ・ゴールデンパレス大阪)

DSCJ B級戦 スタンダード 表彰式



DSCJ B級戦 ラテン 表彰式



シニアⅡ A級戦 スタンダード 表彰式



シニアⅢ A級戦 スタンダード 表彰式



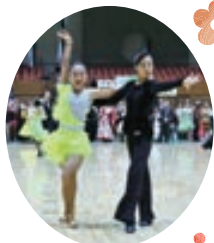
★団体戦新設の少年A, B (高三以下、18年前の4月2日以降に生まれた者、同性同士可) の若い力も頑張りました!



山下遥聖・山下実彩紀組 (愛知県)
C級スタンダード
ラテン優勝



足立陽貴・足立心優組 (京都府)
B級スタンダード優勝



堀真・松村愛花組 (富山県)



津田琥汰朗・津田マリア組 (大阪府)



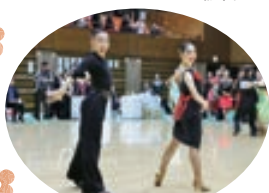
川本竜・川本弥由組 (奈良県)
A級戦ラテン準決勝



ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組 (神奈川県)



内田光則・内田早香組 (千葉県)



安藤弘幸・山本琴葉組 (東京都)



上田蒼太・山口聖来組 (大分県)

誰もが世界一になれるわけでもない
誰もが日本代表になれるわけでもない
それでも人はスポーツをする
昨日の自分に追い越されないために
明日の自分を追い越すために
スポーツに鍛えられた人生は
勝っても負けても きっと負けない

スポーツは、自分を超越するためにある。

スポーツくじ



スポーツくじ (toto・BIG) の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

www.toto-dream.com www.toto-growing.com ①9歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売:独立行政法人日本スポーツ振興センター

ダンス・ダンス・ダンス 第86号 (WINTER)

平成30年1月発行

- 発行人/山田 淳 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)
- 編集長/神宮周二 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部)
- 企画/公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
- 発行所/公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857
<http://www.jdsf.or.jp>

©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。